家

二年　画数 10　筆順 宀 宀 宀 宇 家 家　オン カ・ケ　クン いえ・や

成り立ち

〝いえ〟のかたちをあらわし、〝いえ〟というういみにつかわれる〝宀〟と、〝豚〟のかたちをあらわし、豚のいみの〝豕〟とをくみあわせてつくった字です。

「豚のすむ家」というういみの字ですが、いまは「人のすむ家」のいみにつかわれています。

じぶんの子をけんそんして〝豚児（豚の子）〟というように、じぶんの家をけんそんして〝家（豚の家）〟といったものとおもわれます。

また、〝画家〟〝音楽家〟というように「一つのことをせんもんにする人」のことをいうのにつかわれます。

〔カは漢音、ケは呉音。呉音は、〝家来〟〝平家〟のように古くからの言葉に多い。〕

使い方

▽ぼくの家は、山下町二丁目六番地にあります。おじいちゃんの代から、ずっとここにすんでいます。ふるい家ですが、ぼくは大すきです。

▽わたしの一家は、ぜんぶで六人です。おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさん、お兄さん、それとわたしです。

▽わたしは、きびしい家風のもとに、そだてられました。

熟語例

▽家畜（犬やねこ、うしやうまなどの、家でかっているどうぶつのこと。「家に畜える生き物」のことです。）

▽家具（家の中でつかう道具。道具の中でも、ひかくてき大きなもののことを、いいます。たとえば、たんす、テーブル、いすなどです。）

▽家風（家の風。その家に、むかしからつたわっているしきたり）

▽作家（小説などの本をかく人。ひろいいみでは、芸術品を作る人をさすこともありますが、ふつうは、「本をかくことをせんもんにする人」のいみです。）

歌

二年　画数 14　筆順 可 可 哥 歌　オン カ　クン うた・うた＝う

成り立ち

〝よい〟〝よろしい〟というういみの〝可（5年665）〟を二つかさねた〝哥〟と、人が大きな口をあけたかたちの〝欠〟とをくみあわせてつくった字です。「大きな口をあけて、〝よい〟こえを出す」というういみで、「〝うた〟を〝うたう〟」ことをあらわした字です。〝うた〟、もしくは〝うたう〟というういみの字です。

また、〝和歌〟や〝短歌〟のいみにつかうこともあります。〝和歌〟は、〝漢詩〟にたいしていうことばで、〝和歌〟ともよみます。長歌と短歌とありますが、いまは〝和歌〟といえば〝短歌〟のことになります。

使い方

▽わたしは歌がすきです。きくのもすきですが、歌うほうがもっとすきです。『子ぎつね』という歌を、よく歌います。とてもかわいらしい歌です。

▽むかしのきぞくたちは、おりおりに、和歌をよんでは、心をなぐさめました。「しろがねも　くがねもたまもなにせむに　まされるたから　子にしかめやも」（銀も黄金も宝石も、なんとしよう。子どもほどだいじなたからものはない）など、よい和歌が、たくさんよまれました。

▽『青い目の人形』の歌詞をつくったのは、野口雨情という人です。

▽歌劇『蝶々夫人』は、日本をぶたいにしています。

熟語例

▽唱歌（歌を歌うこと。またその歌のこと。とくに、むかしの小学校で歌った歌をいうことがあります。）

▽歌詞（歌のことば。曲にのせて歌う文句）

▽歌劇（歌いながら劇をえんじるげいじゅつ。オペラを日本語に訳したもの）